

会議の名称	あま市歯と口腔保健推進協議会
開催日時	令和6年1月17日（水）午後2時～3時10分
開催場所	あま市役所 2階 E会議室
議題	1. 令和5年度歯科保健事業報告について 2. 令和6年度歯科保健事業計画（案）について 3. 歯と口腔保健計画の数値目標について 4. 歯と口腔保健計画に関する取組について
会議資料	次第 配席図 あま市歯と口腔保健推進協議会委員名簿 令和5年度歯科保健事業報告（資料1） 令和6年度歯科保健事業計画（案）（資料2） 歯と口腔保健計画の数値目標（資料3） 歯と口腔保健計画に関する取組（資料4）
公開・非公開の別 (非公開の場合はその理由)	公開
傍聴人の数 (公開した場合)	0人
出席委員	渡辺委員、伊藤委員、加藤委員、笛山委員、横井委員、 横田委員、井村委員、山田委員、山本委員 （名簿順）
欠席委員	下方委員
事務局	村上市長、樋口子ども健康部長、吉川子ども健康部次長兼健康推進課長、 杉藤健康推進課主幹、水谷歯科衛生士、井田歯科衛生士

会議録（要旨）

1. 市長あいさつ

2. 会長及び副会長選出及びあいさつ

会長 歯科医師連絡協議会代表の渡辺委員に決定

副会長 民生委員児童委員協議会会长の井村委員に決定

3. 議題

(1) 令和5年度歯科保健事業報告について

事務局説明（資料1）

(2) 令和6年度歯科保健事業計画（案）について

事務局説明（資料2）

(3) 歯と口腔保健計画の数値目標について

事務局説明（資料3）

(4) 歯と口腔保健計画に関する取組について

事務局説明（資料4）

【質疑応答】

○加藤委員

資料1の19番の10020・9020・8020表彰ですが、以前は健康まつりの時に表彰していたが、コロナの関係で現在開催されていない。令和6年度からはどういう形でされる予定か。長寿を祝う会も無くなつた。

○事務局

以前は健康福祉まつりで実施していたが、今後は健康福祉まつりを開催しないという方向。今後どのタイミングで表彰出来るのかについては、検討が必要。現状においては歯科医師の先生方からと、保健センターから渡している。

○渡辺会長

もう一度皆で集まって、健康志向で集まろうということをやってもいい。副賞が何だと騒ぎ出すのではなく表彰者は健康ですということをアピールする式に出来ると良い。

○伊藤委員

資料2の15番の75歳以上の歯と口腔の健診は、口腔機能低下症を意識した検査だと思うが、検査内容を教えてほしい。

○事務局

事業を始めるにあたり、歯科医師との調整で先生方が健診票や検査項目を考え、視診や触診がメインとなり、加えて30秒間で何回嚥下が出来るかのRSSTを行っていた。今年度から「健口くん」という機械を使い、オーラルディアドコキネシスの判定を新たに追加して行っている。

今後については、歯科医師と一緒に調整しながら、今後の健診項目をどうするかということも含め、話し合って決めていきたいと考えている。

○横井委員

小中学生の問題は食後の歯みがき。今回の資料3を見ると、中学生の歯みがきをしている割合が随分低い数字になっている。コロナが第5類になり、学校で歯みがきする生徒が増えてくると思っている。

昔に比べてむし歯は減ってきてているが、歯肉炎は増えてきている。保健指導を通じて子どもたちが自分で自分の健康を守っていくという意識を持つことが大切だと思う。

○横田委員

歯科検診の結果や、自分たちが行ったアンケートを見ると、むし歯については、意識は高いと思うが、歯肉の状態は検診結果を見ても、注意が必要だと感じる。矯正をしている子、歯並びで歯科医師に指摘を受ける子も沢山いて、歯みがきが出来ていなかったり、汚れが残ったりしている。学校歯科医や、歯科衛生士にご協力を仰ぎながら昨年度からバトンタッチ運動に参加し、正しい歯みがき方法に力を入れて取り組んでいる最中。

○渡辺会長

クラスごとで年間の色々な検査をした結果の話をされたが、非常に手の込んだ細かい健康づくりをやらないといけない。学校の教育そのものがそういう方向性を持っている。目標設定というのはそうならない為のもの。

○山田委員

壮年期、高齢期になると歯周病が一番気になる。歯周病の予防は若いうちからする必要がある。一つ提案だが、健康診断の中に歯の診断を組み入れると、個々人の口の中の状況がどうなっているかよく分かるし、どういったケアが必要か教えてもらえば、しっかりした口腔ケアが出来るのではないかと思う。

○渡辺会長

お口の健康診断。体全体の健康診断をするように言っているが首から上については、何も言っていない。あま市全住民のお口の健診もやって当たり前。

○事務局

集団基本健診の中に、歯の健診も入っていた時期もあったが、基本健診が特定健診になり、現在は健康推進課ではなく、保険医療課が実施している。本来その中に組み入れていくと、一番いいと思うが、特定健診は個別健診というのが現状で、各医療機関での実施。保健センターでの集団健診は、歯だけに特化した形での健診が可能かということ等を今後検討、調査研究が必要。

○渡辺会長

保育園では歯科健診が2回の実施になった。成長発育は大事。内科に合わせて、歯科健診もやる。

保育所の先生方は長時間園児と一緒にいるので非常にコメント内容が濃い。

○山本委員

保育園の歯科健診は以前年に1回だったものが2回になり、歯科衛生士が歯みがき指導を実施していたが、コロナで出来なくなった。保護者も巻き込みながら、小さい時の歯の大切さを保護者にも周知していきたい。歯科医師から直に子どもの歯をほめて貰ったことを保護者にも伝えている。

○笛山委員

薬剤師は日頃、薬を渡すときに薬、食事療法、運動療法の話をしている。その時に歯について、あまり考えたことがなかった。今後は患者さん、特に高齢者の方に話す時に、お口の状況も頭に入れて話をすると、色々な連携が出来るし、患者さんの為にもなると思いながら聞いていた。

○加藤委員

あま市で5、6月頃に実施される防災訓練に、我々歯科技工会も歯科医師と一緒に参加している。仮設診療所を開いて、歯科技工士は義歯の清掃や修理等をしている。今年の能登地震では避難所での、二次被害で誤嚥性肺炎、肺炎で亡くなる方が非常に多いということが言われている。自分たちも活躍出来れば良いと考えている。

昨年、夏場に第19回健康都市連合日本支部大会があま市で開催があった。勇健都市である、あま市は歯科で何か関係あったのか教えてほしい。

○事務局

健康都市連合は7月13、14日美和文化会館を使って行った。その際にあま市歯科医師協議会方々にパネル展示協力をいただき、他の市町と同様に並べ見ていただく形で実施した。当日は市の育成ボランティアである活き生き推進隊による活動の発表や、健康づくりに特化はしていないがRAP-Oエコというプログラミングをやっている団体に、活動発表していただき、市のPRをした。

他には加盟団体が発表をし、市民病院の梅屋先生が基調講演をした。2日間にわたり実施した。

○加藤委員

その他イベントがあればまた誘ってもらえれば私たちは参加する。

介護の現場で歯科技工士が重要視されている。歯科医師と歯科衛生士がセットで在宅診療を行つて患者等をみる際に、入れ歯が非常に不潔になっていたり、修理が必要な状態で、現状では歯科技工士は、法律上現場へ出向いて直すことが出来ないが、一昨年前から法整備がされ、まだ決まってはいないが、ゆくゆくは歯科技工士も介護の現場へ行く流れになってきている。厚労省も今取り組んでいるが、歯科技工士も歯科医師と歯科衛生士とセットで、出来たらいいと思う。

○渡辺会長

現場で実際に義歯の状況を確認し、歯科技工士が調整することは当然のこと。今まで認められてないこと自体が、考えられていない。

また、健康都市連合の日本支部大会、本当に一生懸命やっていただいた。あま市独自の歯科保健事業である、0歳の乳児歯科健診や、通所型サービス施設の歯科健診を実施していることを周知することが出来た。そういう意味でこの大会は非常に良かった。

○伊藤委員

行政の皆様方、市民の皆様方、あま市歯科医師協議会からの要望をいただき、業務委託している地域医療振興協会のもと、当院に歯科口腔外科が開設されることになった。すでに昨年の10月から歯科口腔外科の標榜をとり、医科の入院患者さんの歯科治療をやっているが、1月22日から、外来の患者さんたちを受け入れる。口腔外科をメインでやっていくが、他の病院との差別化として障害のある方や歯科治療に対する恐怖心が強い方に対しても、全身麻酔での治療というのを挙げている。

口腔外科の専門医と障害者歯科学会という会があり、私自身もその指導医を取得しており、一緒に働く加藤医長も同じ免許を持っている。基本的には予約制になっており、かかりつけの歯科の先生、或いは医科の先生からご紹介或いは患者さんご本人の場合は、ご本人が、病院、歯科口腔外科受診予約を取っていただくという形になる。皆様方に周知させていただく。

○渡辺会長

特に障害のある方に対する専門的な治療は、あま市では、伊藤先生と加藤先生以外出来る人がいない。障害者に対して3、40年前は押さえつけて治療することもあったが、今はそんな時代ではない。麻酔をして、治療をするのだと。麻酔の免許を、持っているのはもうあま市民病院しかないの

で、期待している。

○子ども健康部長

本当に皆様にはご意見大変ありがとうございました。健康推進課は、来年度、35の取り組みを他部署と企画、構想して、実施をしていく。市民にとってよりよい歯と口腔の事業を展開していくと思う。委員の皆様には、その都度ご意見をいただき、いろいろ事業の参考とさせていただくので、今後ともご協力お願い申し上げる。

○井村副会長

能登の災害は他人事ではないということを実感した。防災のハザードマップや皆さんの被災袋を見直すなり、防災グッズの中には多くの食べ物に加え口腔ケアグッズを入れていく。今回、テレビで見ていて水がないので口腔ケアがなかなか出来ない状況があった。集団で避難所に入ったときの口腔ケアが出来ない。今は水がなくても対処出来るグッズは、必ず防災の中に入れてくということが必要だと思う。

○渡辺会長

新型コロナの感染者の状況説明。